



令和元年7月3日

ともやぐらしたみずひき ひらしゃじほうおうきりんずいうんもんよう

祇園祭船鉾櫓下水引「緋羅紗地鳳凰麒麟瑞雲文様 刺繍」の復元新調について

祇園祭船鉾櫓下水引は江戸時代後期の天保5年(1834)に製作されたもので、すでに185年が経過し幕の変形や刺繍糸の劣化・変色がかなり進んでいましたので、平成29、30年度の2ヶ年の国庫補助事業で復元新調しました。祇園祭山鉾連合会の専門委員の先生を中心に、劣化・変色している刺繍糸の色や刺繍技法をどのようにするか、補修で追加された折り曲げ部分の金雲を復元するかどうか等について、慎重に検討を重ねながら製作を進めました。事業費は2ヶ年で15,630,000円(税込)です。

製作仕様

寸法:外寸 縦64.0cm×横418.0cm

内寸 縦62.5cm×横415.0cm

手法:切付刺繍(肉入り)を主とし、鳳凰の尾羽、脚、金雲は直刺繍とする。

刺繍技法は刺しぬい、平ぬい、折り返しぬいを主体とし、金糸の輪郭線や金雲の面は駒取り、駒詰め技法を用い、鳳凰の目の周りや、麒麟の目の周り、髭には巻き付けぬい・巻き立てぬいを用いる。

基布:緋羅紗(ウール100%、1.6mm厚)

素材:絹糸 21デニール/12本合せの平糸、及びその撚り合せ糸

太さは17段階、撚りは3種+平糸使い

色数は21色+混合色4色

本金糸 1号色(純度98%)、8、9、10掛 瑞雲の輪郭等に使用

4号色(純度94%)、9掛 瑞雲の面に使用

吹きガラス 鳳凰、麒麟の眼球

仕立:三方縁は金唐革

裏地は麻布(綿芯入り)

後面左右端に浅葱色揚巻結び夫婦房が4枚付属する

公益財団法人 祇園祭船鉾保存会

監修 藤井健三

制作 繡匠 樹田紅陽

制作 (株)川島織物セルコン